

# 4 運動機能の発達

## A 原始反射

反射とは、無意識に特定の筋肉などが動く現象です。知覚や姿勢などに与えられた刺激が、大脳の統制を受けずに脊髄や脳幹に伝わって起こります。随意運動が発達すると、だんだんと原始反射は消えていきます。原始反射は乳児期早期にみられる反射です（図 2-16）。現れるべき時期にみられないとき、消失する時期にみられるときは、脳や神経系に異常があるかもしれません。

### ① モロー反射

赤ちゃんの頭を正面に向けて少し起こしたあと、急に頭を下げると、びっくりしたように両手を広げ、指もすべて伸ばして開き、続いて何かに抱きつくような左右対称の動作をします。これがモロー反射です。急な大きい音に対して反応することもあります。生後 4～6 か月ごろまでみられる正常な反応ですが、それ以降も反応が残っていると、脳の障害が疑われる場合があります。

### ② 把握反射

手のひらにものが触れるとぎゅっと握り締める把握反射しゅしゅうを手掌把握反射といいます。足の裏も同様です。足の裏を圧迫すると、足指も含めて内側に曲がる反射がみられます。手の把握反射はものを握ることができるようになる生後 4 か月ごろになくなります。足の反射は自分の足で立つようになる生後 11 か月ごろになくなります。

### ③ 哺乳反射

出生後すぐに母乳やミルクが飲めるのは、哺乳に関する一連の反射によります。

#### ● 探索反射

口の周辺を刺激すると、刺激の方向へ顔を向けて口を開きます。乳首を探す動きでもあります。

#### ● 捕捉反射

口に乳首や指などやわらかいものが触れると、くちびると舌でとらえる

動きがみられます。乳首をしっかりとくわえます。

#### ● 吸綴反射

口で乳首や指をくわえると、舌をリズムカルに動かして吸う動きです。これは母乳やミルクなどを吸うための反射です。このあとに現れる嚙下反射えんげによって、たまった乳汁を飲み込みます。

### ④ 緊張性頸反射

上を向いた状態で寝ている赤ちゃんの頭部を一方に向けると、顔を向けた側の手足を伸ばして、反対側の手足を曲げます。これは反射です。生後 5～6 か月ごろから消失していきます。

### ⑤ 自動歩行

赤ちゃんの両側の脇の下を支えて、足の裏を軽く床に触れるようにして体を前かがみにさせます。すると、足を交互に動かしてまるで歩いているような動作をします。この反射は生まれたばかりのころにみられます。

### ⑥ バビンスキー反射

足の裏の外側を、とがったものでかかとかからつま先に向けて刺激すると、足の親指が外側に曲がり、ほかの指は扇のように広がります。この動きも反射です。

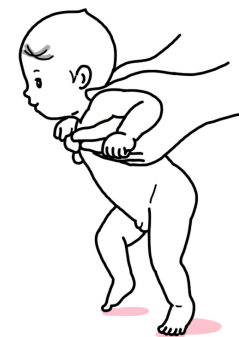
モロー反射



把握反射



自動歩行



探索反射



図 2-16 原始反射